

明 — みょう —

真宗大谷派 本明寺通信

No.8

2008年4月1日発行



御遠忌テーマ 今、いのちがあなたを生きている

真宗大谷派  
東本願寺  
75<sup>th</sup> Shinran



真宗大谷派  
東本願寺  
www.ji-n.net

今、いのちがあなたを生きている

真のよりどころを  
求めて

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

## 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

御遠忌テーマ 今、いのちがあなたを生きている

# 表紙のロゴについて

今回の本明寺報「明・みょう一」から「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」のテーマと、本山（京都・東本願寺）と東京教区で作られた「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」のロゴを表紙に載せました。二〇一一年（平成二十三年）は親鸞聖人の七五〇回の御遠忌（法事）の年です。私たちは、七五〇年前に亡くなった親鸞聖人のお姿も見ることがないですし、声も聞いたこともありません。私たちが御遠

忌をお勤めするという事はどういうことなのか。

まず、第一に親鸞聖人は法然上人のもとで浄土真宗の教えを明らかに、多くの人々に教え広められました。そのことへの毎年の報恩講と同様に報恩謝徳の思いがあると思います。

第二に、七五〇年前に親鸞聖人が大切にされた教えが、今でも私たちのところに届いてきている事実の「ありがたさ」だと思います。

それは親鸞聖人が入滅された七五〇年前から、いや仏教を明らかにされたお釈迦様が入滅なさった二五〇〇年も前から今現在まで教えを大切にしてこられた人々がおられ、また真宗に生きた人々がいたからこそ、今現在に教えが届いてきているのだという「ありがたさ」です。私たちの生涯で一度、もしくは二度しかめぐり遇うことのできない親鸞聖人の御遠忌は、七五〇年もの間、教えを大切にされて

きた方々がおられ、教えに生きた方々がおられたからこそ迎えらる大切な法要です。

私たちも二〇一一年（平成二十三年）に厳修される「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」を迎えるに当たり、法事としての御遠忌を迎えるのではなく、一人ひとりが、親鸞聖人が明らかにされた真宗と真向かいになり、「私が真宗を学ぶ」生活ではなく、「私が真宗に学ぶ」生活を送り御遠忌を迎えたいと思います。また、親鸞聖人の御遠忌がゴールではなく、私たちが真宗の生活を通して大切だと思うことをこれからも実践し、伝え、生きることが大切だと思います。

親鸞聖人七百五十回御遠忌  
本山ロゴ



東京教区では御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを求めている」に「真のよりどころを求めて」を東京教区のテーマとして御遠忌を迎えます。



宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

今、いのちがあなたを求めている

真のよりどころを  
求めて

親鸞聖人七百五十回御遠忌  
東京教区ロゴ

副住職のたまかな活動

# 山谷 炊き出し

二月二十七日

山野地区は東京の台東区と荒川区をつなぐ汨橋（あしたのジョーで有名）周辺の地域の旧名称です。山谷は江戸時代から素泊まり専門宿が集まり、高度経済成長期に日雇い労働者の街として発展しました。しかし、不景気に伴い、生活が厳しくなり、宿にも泊まれず路上生活を余儀なくされている人が多く集まっています。そのような人たちに「いし・かわら・つぶて舎」は十二月から二月まで毎週水曜日に約七〇〇食のお弁当を配っています。東京教区の「同朋社会推進ネットワーク」では期間中の

月に一度、大鍋を使いみそ汁などの炊き出しをしています。

以下の文は「同朋社会推進ネットワーク」の方に感想文を求められたので、自分の思いを書いた文です。

いっだったか、山谷にあるドヤ（宿）を利用する人が変化しているというテレビを見ました。最近ドヤを利用する人は、長期出張者や日本観光にきた外国人、地方から買い物や観光目的に東京に来る若い女性などが増えているという内容でした。それはドヤの一泊あ

作業の前に「いし・かわら・つぶて舎」の事務局である北條親善さんから山谷についてのお話を頂きました。



たりの料金が一五〇〇円くらい、三〇〇〇円くらいという安さにあ

メニューは具沢山の豚汁を作り  
ました。



り、出張経費の削減のためだった  
り、宿泊にお金をかけず買い物や  
食事にお金をかけたという理由  
らしい。ドヤの設備はテレビやエ

アコンはほぼ付いており、最近ではパソコンをインターネットに繋げるようにもなっているそうだ。部屋の広さを除いてはビジネスホテル並になっているらしいです。利用者の変化だけではなく、ドヤの看板を英語表記にしたり、店主が英会話の勉強をするなど、経営者側にも変化があるとのことでした。その番組の最後は「山谷の街が変わります」ということだったと思います。

その番組を見て思ったことを  
ブラブラと書きますと、最初に思  
ったことは「山谷が変わることは  
いいことだなあ」でした。しかし、  
すぐに疑問の山に変わりました。  
「ドヤを利用する人たちは山谷と  
いう事を知っているのだろうか」  
「経営者側が変化するという事は、

今までの経営ではやっていけない  
という事で、つまり今まで利用し

出来上がった豚汁はカップに分  
けてダンボールに入れて、お弁当  
の配られる玉姫公園まで運びま  
す。



約八〇〇食の豚汁が出来ました。



ていた山谷の労働者が泊まらなくなった。もしくは泊まることもできないくらい大変な生活をしているのではないだろうか」と様々な

ことを考えました。そんな思いを抱えながら、二月二十七日に行なわれた「いし・かわら・つぶて舎の山谷炊き出し with 同朋社会推進ネットワークの大鍋」に、昨年の二月以来二回目の参加をさせていただきました。

ここからが感想ですが、豚汁を配っているときに思ったことは、去年はボロボロの服を何重にも着込んで路上生活をしている人が並んでいるという勝手なイメージを持っていましたが、外見も若く綺麗な服装をしている人が多いという事でした。もしかしたら、若い山谷の労働者が増えているのかも知れませんが、去年はどれだけ目を伏せてみそ汁を配っていたのかということも思いました。去年の一回目の参加から今年の二回目の

参加に一年の時間が有りましたが、自分の路上生活者に対する見方が何が変わった訳ではありません。路上で横になっているヒトが目に残ったとしても、やはり街の風景の一部として見ています。何かの本に書いてあったことですが、路上で横になっていているヒトに「人が気になりませんか」という質問をしたら、「ヒトの足しか見えなから人目は気にならない」と答えたとそうです。路上生活者も街行くヒトを「人」として見ているのではなく、私と同じように流れる風景として私たちを見ているのかと思えました。そんなことを思い出させてくれたのが同朋社会推進ネットワークの山谷炊き出しのチラシの言葉でした。

**昨年の新潟中越沖地震では、**

中華井やおでんなど、延べ約一三〇〇食。山谷では、みそ汁二一〇〇食を配食することが出来ました。この数字は、単に人数や個数などではなく、出会いの数でした。この大鍋という“もの”を通して、容易には出来なかった、新しい出会いが作られたのです。

また、「いし・かわら・つぶて舎」の事務局長である北條さんは、「私たち」が炊き出しをするのではなく、「私」が炊き出しをする。「あの人たちに炊き出しをするのではなく、「この人」に炊き出しをする。こういう思いが大切である。

とお話をされました。今回の山谷の炊き出しでは、お互いが風景として見ていなかったヒト同士が、

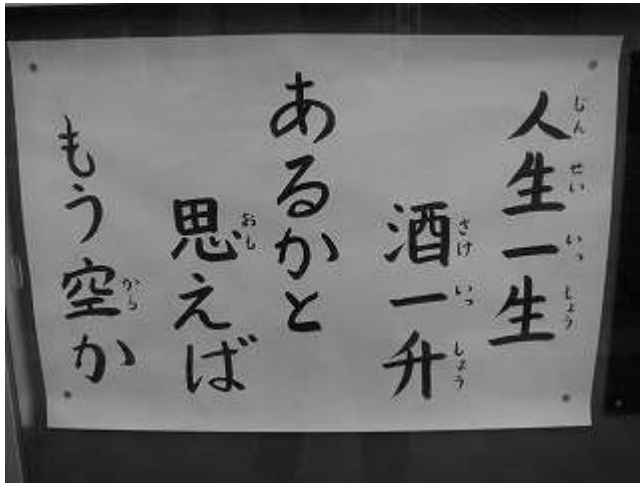
豚汁を通して私が「一人の人」と出会える機会だったと思います。

玉姫公園にてお弁当を配っている様子です。まず、二列に並んだ人に百本ごとに色を変えた割り箸を配ります。（割り込み防止のため）



玉姫公園でお弁当を食べている様子です。配られたお弁当は、公園で食べる人や、持ち帰る人もいます。炊き出し終了後に、お弁当を味見させてもらいましたが、おかげも豊富でとてもおいしかったです。

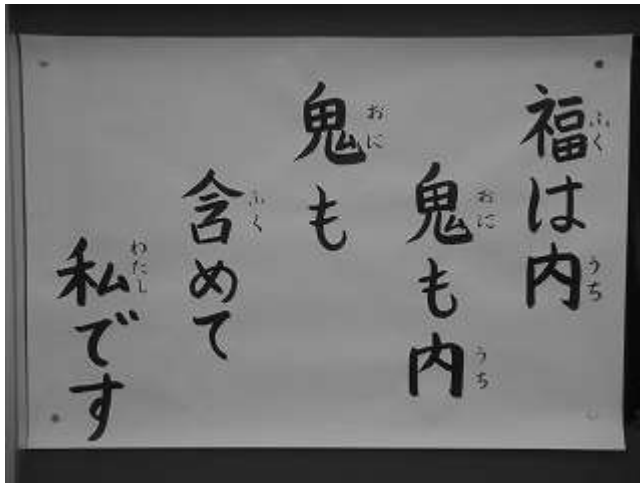




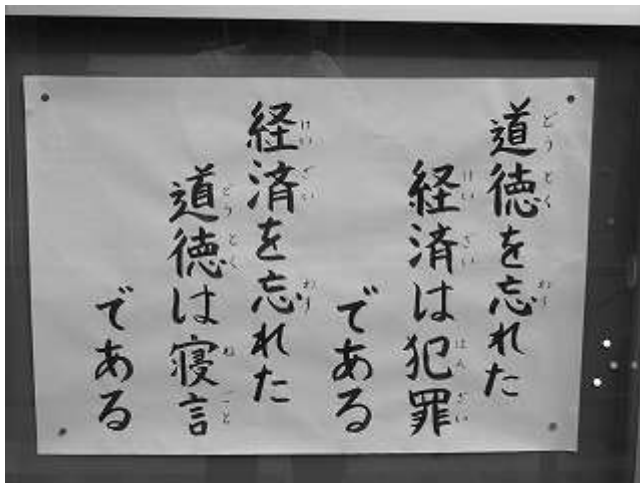
一月

お寺の掲示板

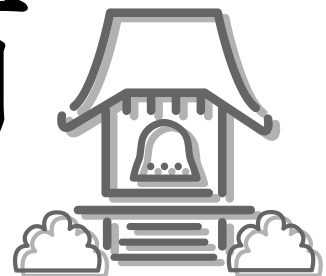
三月 二月 一月



二月



三月







## 1月壁画テーマ 「お正月」



## 2月壁画テーマ 「ゆきのぺんきやさん」

ゆきのぺんきやさん

作詞… 則武昭彦  
作曲… 安藤 孝

ゆきのぺんきやさんは おそらから ちらちら  
おやねも かきねも ごもんも みんな  
まっしろく まっしろく そめにくる

ゆきのぺんきやさんは おおぜいで ちらちら  
おやまも のはらも はたけも みんな  
まっしろく まっしろく そめにくる

※ 3月の壁画は他の掲示物がありましたのでお休みしました。

◆私たちの真宗◆

一、本尊 阿弥陀如来

二、宗祖 親鸞聖人

三、宗旨 浄土真宗

四、宗派 真宗大谷派

五、本山 真宗本廟（京都・東本願寺）

六、経典 浄土三部経

仏説無量寿経

仏説観無量寿経

仏説阿弥陀経

七、教え 本願を信じ、念仏もうさば仏になる

八、称名 南無阿弥陀仏

九、勤行 正信偈・念仏・和讃・回向・御文

十、宗風 礼拝の生活

《朝夕に勤行をいたしましょう》

正信の生活

《迷信に惑わされないで歩みましょう》

聞法の生活

《仏法を聴聞し、生まれた意義と

生きる喜びをみつけましょう》

あとがき

◇御遠忌が三年後に迫ってきました。御遠忌のロゴを載せることで、みんなが御遠忌の意識を持ち、自分にとって御遠忌とは何かを考えるキツカケになってくれたらいいなと思います。お寺としても、個人としても、御遠忌をキツカケに何か一歩歩み出したいと思っています。

◇我が娘である唯果（いちか）は最近では首が据わり、「あゝ」とか「うゝ」とおしゃべりするようになりました。

発行 真宗大谷派 本明寺

副住職 本田 彰一（釋 彰一）

〒130-0012

東京都墨田区太平二・七-一

TEL 03-3623-1536

FAX 03-3623-1538

E-mail honmyouji@mx1.ttcn.ne.jp

URL

<http://www1.ttcn.ne.jp/~honmyouji/>